

梅鶯仏教壮年

第24号
2005年
7月18日

次回例会

期日：7月31日（日）

夜7時～8時半

プログラム

お勤め・法話

話し合い

仏教讃歌練習

・真宗宗歌

・さんだんのうた

◎話し合いテーマ

「正信偈を味わう②」

次例会の「正信偈を味わう」は、普放無量無辺光から超日月光照塵刹までの5句です。

全ての迷える人々をすくい取る阿弥陀さまの働きを、十二の光にたとえて讃えられていきます。

一つひとつの光の働きにより私たちの陰の部分の部分が照らし出され、力強く迫ってきます。共に味わいましょう。

お詫び報告

聞法旅行の中止

本年度梅鶯仏教の聞法旅行を、9月23日・24日に予定しておりましたが、諸般の事情により中止とさせていただきます。23日（金・秋分の日）に通常の例会を開催させていただきます。

楽しみにしていただき、また既にご都合を付けて下さっている方もおられるかもしれませんが、悪しからずご了承賜りたくお願い申し上げます。

なお、鬼に笑われるかもしれない聞法旅行を、来年度はより充実したいと願っています。

○忍
がまんをするんだよ
がまんをするんだよ
くやしだろがね
そこをがまんを
するんだよ
そのすれば
人のかなしみや
くるしみが
よくわかって
くるから

相田みつを

へちよつといいはなし

阪神タイガースの杉山投手、日本ハムファイターズの木元内野手、二人はセ・パ両リーグで現在売り出し中のプロ野球選手ですが、共に西本願寺系の龍谷大学の出身者であります。

この二選手の大学野球部当時のマネージャーで、現在龍谷大学の職員として勤務している青縁あつて結婚することになり、私も杉山選手も木元選手もシーズン真只中なので結婚式には出席できず、代わりに御祝いのビデオメッセージが送られてきました。

楽しい中身のメッセージビデオでしたが、その中で印象が深かったのは、杉山投手のメッセージには「おかげさま」という言葉がふんだんに使われ、木元選手のメッセージには「感謝」という言葉があちこちで使われていたことです。

勝負を掛けた厳しいプロ野球の世界の中にあつて、「おかげ」「感謝」という言葉を忘れることの無い二選手の、今後ますますの活躍に期待を込めたことでした。

題材法話

*前号からのつづき

法蔵菩薩さまが阿弥陀様
となられた経緯を「法蔵菩
薩物語」と呼び、それを親
鸞聖人が喜びの詩として詠
まれていたのが「法蔵菩薩
因位時」からの「重誓名聲聞
十方」までの8句です。
その内容は、法蔵菩薩様
が「五劫」や「兆載永劫」
といった、私たちの日常感
覚では計り知ることのでき
ない永い時間をかけて、さ
り全ての迷いの人々をさと
う願いを立て、成就せられ
たというお話ですが、ここ
までは前号でお話ししまし
た。

それでは、「五劫」や
「兆載永劫」といった、私
たちの日常感覚を超えた時
間とは一体何を意味するの
でしょうか？

○ 真実のせかい

例えばこのような表
現を思い起こして下
さい。



「親の恩は海よりも深く、
山よりも高し」
「命の尊さは地球よりも重
し」
「あなたへの愛は未来永劫
のもの」
どうか、命が地球より深
いとか、愛が未来永劫であ
るなどを、そのままだと考
えたら、全く意味をなしま
せんが、「恩」や「愛」や
「命の尊さ」がいかに真実
であり、本物であるかを表
すには端的な表現です。
すに、現実の世界は、とき
て理屈を超えたとともに初
めて言い表されるもののな
です。

「法蔵菩薩さまが五劫の
間思索をし、兆載永劫の間
修行を積んで阿弥陀さまに
成られた」というのは、そ
れが「完全無欠の真理」と
しての真実を表現するもの
なのです。

無量寿経の法蔵菩薩物語は
単なる寓話ではなく、法蔵
菩薩の誓願の結
晶である「南無阿弥
陀仏」が間違いなく



成立したことを物語ってい
るものなのです。
法蔵菩薩物語で語られる
ものは、南無阿弥陀仏の名
号が針で突いたほどの欠陥
もなく、完全無欠な法則と
して私たちの働いているこ
とを語っているものでありま
す。

○ 子が親を呼ぶ

そしてその後、さらに
「わたしの名前、すなわち
南無阿弥陀仏の名前が、あ
らゆる世界の迷いの人々を
させ、全ての迷いの人々を
さとりの世界に至らせる」
と重ねて誓われるのです。
完全無欠の救いの法則が
できあがったのに、なぜま
た改めてわがわが「わたし
の名前を、人々に聞こえさ
せたい」と誓われたのでし
ょうか？

それは、幼子が親の名を
呼ぶことを思っ下さい。
ある子供の言葉
に、「おかあちゃん
けん、なんでもない
けど、ただ呼んで
みただけ」という



のがあります。子供が
「おかあちゃん」と呼
ぶ。母親が「なに」と
応える。子供はそれだけ
で良いのです。
親の子に掛ける願い。
その願いに全幅の信頼を
寄せる気持ちがおかあ
ちゃん」の呼び声の中に
全て含まれているのでし
ょう。

阿弥陀さんが自分の名
前を呼ばせようとするの
は、「私にまかせよ」の
願いが全てその中に含ま
れていることなのです。
母が子供に「ここに
るよ」と呼びかけます。
その親の呼びかけへの答
えが「南無阿弥陀仏」の
お念仏なのです。

「南無阿弥陀仏 親を呼
ぶ言葉があります。南無
う言葉があります。南無
阿弥陀仏は私が称えてい
るようですが、実は南無
阿弥陀仏という親の呼び
声であつたのです。その
ことを親鸞聖人は8句の
中で悦ばれています。